

子どもの安全意識を高めるための番組活用の在り方

北海道札幌市立新琴似北小学校 教諭 安井 政樹

小学校5年 総合的な学習 子ども安全リアル・ストーリー

番組の特徴

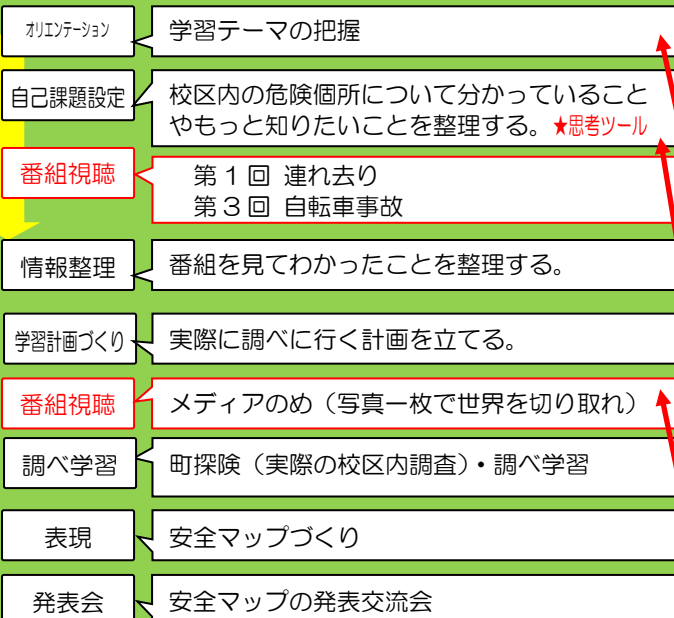
小学校高学年を対象にし、これまであったようなデフォルメされた表現（悪い人＝サングラスとマスクのような）を少なくし、身の危険にあうとは具体的にどうということなのか、何に気を付ければいいのかを伝え、安全に対する意識を高める番組である。

研究の概要

新番組「子ども安全リアル・ストーリー」を活用して安全マップづくりを行うことで、子どもの安全意識を高めようとした。具体的には、単元のオリエンテーションで番組を活用することで、どういうところが危険なのかを考えさせた。その際、思考ツールを用いることで漠然としていた「危険」が明確になり、校区内の危険箇所をより具体的に考えられるようになった。

授業デザイン

単元：新1年生用の安全マップをつくろう
目標：校区内の危険箇所を把握し、分かりやすく伝えることができる。



知っていること (before)	知りたいこと	学んだこと (after)
<ul style="list-style-type: none"> 曲がり角で 歩行者が歩かない所 歩行者が歩かない所 歩行者が歩かない所 	<ul style="list-style-type: none"> 変な人が多い所や場所 急に安全な場所 	<ul style="list-style-type: none"> 悪い人は空っぽ高い ぶつかる場所を避ける おにごっこで力を付けて もし変な人がいたらすぐ逃げ 暴れた逃げろ 見た目は 分からないから聞かなくても 一緒に逃げろ

番組や関連動画クリップの活用意図

問題意識を高めるリアルなストーリー

不審者の事件については、TVや新聞の報道では知っているが、実際の再現VTRを見ることはなかなかない。具体的なイメージをもつことでより身近に自分の問題をとらえることができるように活用をする。

身を守る具体的な方法を知る

危険な場所や身の守り方が整理されており、その理由も含めて理解ができるので活用する。

授業デザインにかかわる教師の工夫

単元を貫く活動（目的意識）

次年度6年生になることを意識して、新入生のお世話活動をするために安全マップを作るという単元貫く活動を設定した。

思考ツール（KWLシート）の活用

番組活用の前後でKWLシートを活用して、既有的知識と新たに得た知識を見える化した。また、自己課題設定も同時に行った。

複数番組の活用

問題意識を高めるために「子ども安全リアル・ストーリー」を活用し、調べ学習（町探険）のために「メディアの目」を活用した。アップとルーズを意識して写真を撮影していた。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価から

- テレビを見て、本当にこういうことがあるんだと思った。
- 人は見かけではわからないから、話をして変だったらさげんだり逃げたりしようと思った。

評価シートから（単元前後で有意差が見られた項目より抜粋）

- 分かったことや考えたことに理由をつけて説明できる。
- 学習した内容を友だちや先生に正しく説明できる。
- 友達と教え合うことができる。

同僚の評価

- 具体的にどういうところが危ないのかについて、写真を効果的に使い分かりやすくまとめることができていた。

実践を終えて＜行動宣言＞

番組を「意欲や問題意識を高めるという情意的な目的」と「写真の効果的な利用という知識技能的な目的」で活用をした。実際に草木の茂みに入り、周りからどう見えるかを確かめているグループがあった。リアルな映像から、人目に付かなければ危険であることを実感した効果だと考えられる。また、どの写真を使えばより危険が伝わるかということを議論していたことも番組の活用の効果であったと考えられる。今後は目的を明確にした番組活用をいろいろな教科で考えていきたい。